

A. 主な動き

1. 内政

▼その他

・13日、ギンプ大統領代行は、議会に爆弾をしかけたとの匿名通報があったため、捜索のため議会が2週間閉会されていたと発表。

・15日、AELは憲法裁判所に大統領を一般投票で選出するための憲法改正案を提出。

▼世論調査

[発展・社会イニシアチヴ研究所(IDIS)]

・議会選挙が次の日曜日に行われた場合の支持率

共産党30.3%、自由民主党14%、民主党10.8%、自由党7.4%、「我々のモルドバ」同盟1.2%、欧州アクション運動0.8%、キリスト教民主人民党0.7%、統一モルドバ0.3%、未定34%。

・政府支持率

AEL政府に否定的37.3%、肯定的23.7%。

・政治家支持率

ルプ民主党党首56.9%、ヴォローニン前大統領40.6%、フィラト首相44.5%、キルトアケ・キシナウ市長37.3%、ギンプ大統領代行25%。

2. 沿ドニエストル

▼15日、オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相のブラッセル訪問

・オシポフ副首相は欧州議会モルドバ委員会に出席し、沿ドニエストル問題解決へ向けたウクライナからの支援の必要性を訴え、同地域への文民監視団の派遣を提案。

・オシポフ副首相はフィーレ欧州委員会拡大・欧州近隣諸国政策担当委員と会談、ドニエストル川兩岸の信頼醸成措置

の重要性を指摘。一方、フィーレ委員は、「5+2」者会談を再開しようとするモルドバ政府の建設的姿勢を歓迎し、キシナウ・ティラスポリ間の信頼醸成に対する欧州委員会の支援を約束。

▼その他

・12日、沿ドニエストルはヴァルダニヤン記者の拘束を延長。

・13日、オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相は、ヴァルダニヤン記者を解放するよう沿ドニエストル当局に呼びかけ。

3. 経済

▼マクロ経済

・14日、中央銀行は、外貨支払準備高が第1四半期に於いて1670万ドル減少し、14億6400万ドルとなったと発表。また、3月末における支払い準備高は前月末比0.08%減であった。同減少は対外債務支払、為替相場下落による。

・14日、沿ドニエストルにおける3月のインフレ率は前月比0.85%であったと沿ドニエストル「経済省」が発表。

▼その他

・14日、閣僚が2009年の収入及び資産を申告。それによると、フィラト首相が最も裕福であり、公職による収入が19300レイ、講演等による副収入が2000レイ、不動産、株等による配当収入が700万レイであった。

4. 外政

▼その他

・13日、フィラト首相は、ポーランドがモルドバの友好国であり、ポーランド国民の悲劇はモルドバの悲劇であるとし、13日を服喪の日とすると発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)